



関川村の宝を未来へ

- さざれ石と ^{いかずち}雷 神社を教育委員が視察-

教育長 津野庄一郎



村教育委員は 23 日、九ヶ谷地区にある「さざれ石」(金丸)と「雷神社」(八ツ口)を訪れました。荒川溪谷の兩岸に広がる^{れきがん}礫岩の地層や、戦時中より必勝祈願の権現様^{ごんげんさま}として祀^{まつ}られているお社^{やしろ}を見学しました。

教育委員からは、「関川村にこんな素晴らしい場所があるとは知りませんでした。子どもたちのためにも、村の宝として大切に残していきたい」との声がありました。



「さざれ石」は、日本の国歌「君が代」にも詠まれ、文化的価値の高い鉱物資源の一つです。元関川村教育委員長・故佐藤貞二先生によれば、「金丸の礫岩層は、新生第三紀中新世、約 1700 万年前に日本海が拡大し、この地域にも海が入り込んできた時代に堆積した

もの」とされています(せきかわふるさと BOOKS・「ふるさと地学散歩」)。

一方、雷神社は、平安時代後期、東北平定に^{ほんそう}奔走する源義家^{みなものよしえ}(八幡太郎^{はちまんたろう}義家^{よしえ})が、住民の助力への感謝として鏡と剣を奉納したと伝わる神社で、今も関東方面や東北各地から参拝者が訪れる、知る人ぞ知るお社です。

村では「令和 8 年度 全国各地の魅力的な文化財活用推進事業」の採択に続き、現在、令和 10 年の国(文化庁)による認定を目指して「文化財保存活用地域計画」の策定を進めています。指定・未指定の文化財の現況調査等を行うとともに、文化財の価値を高め、保存・活用のための財源確保につなげることが目的です。これらの取組を通じて、関川村の魅力向上や関川プライドの醸成を図り、村の文化財を未来へ受け継いでいきます。

<【写真】上：さざれ石、中：さざれ石の礫岩層と教育委員、下：雷神社と教育委員>